還暦を迎え125人集う

昭和52年卒同期会

8月14日、秋田市のパーティーギャラリーイヤタカで、昭和52卒同期会が3人の恩師（三船新次、川口百合子、船木賢咲の各先生）を迎え開催されました。4年ぶり9回目となる今回は、多くの同期生が還暦を迎える節目の年となることで過去最多の125人の参加者で大いに盛り上がりました。

元アナウンサーの大友由美子さんの司会進行で、17人の物故者に黙祷を捧げ、菊地喜久雄代表挨拶、3人の先生方から楽しく懐かしい思い出たっぷりのお言葉をいただいた後、今回が初参加の元財務省国際局長の門間大吉氏の乾杯で宴がスタートしました。同期のN響フルート奏者の菅原潤氏とジャズピアニストの早川泰子さんのコラボでミニコンサートがあり、贅沢なひとときを過ごすことができました。

最後は伊藤博基氏のリードで校歌、エール、山岡長英氏の中締めで、3年後の再会を約束してお開きとなり、100人近くが2次会へと移動しました。楽市での2次会は元国立天文台ハワイ観測所准教授の林左絵子さんの乾杯で始まり、ドイツから駆け付けてくれた斎藤純子さんの締めの乾杯で解散となりましたが、別れを惜しみ3次会へと流れる同期の姿もありました。（岡本 久美子 記）

早々と来年の開催日決定

昭和55年卒東京同期会

毎年恒例となった昭和55卒東京同期会を7月の第1土曜日の7月7日、東京・芝パークホテルを会場に初参加の5人を含め、33人の同期が全国各地からはせ参じ4年連続で開催しました。

当時3J担任で、その後秋高校長を務められた柴田義弘先生にご出席いただき、15時の1次会から終電前の4次会まで年齢を忘れて楽しむことができました。

柴田先生の七夕特別講習に始まり、佐々木俊哉さん制作の七夕スライド鑑賞会、感謝状授与式と続き、締めは保坂尚吾応援団長じきじき指導の応援練習『復活!秋高音頭』。円陣組んで校歌を斉唱。

再会を楽しみにしてくれているメンバーばかりで会場は笑顔、笑い声いっぱいで大盛況で終えることができました。卒業後35年を経て、皆すっかり和気藹々、何でも語り合える会になりました。我ら共に永遠の秋高生なり!!　次回は来年7月6日（土）開催です。（同期会幹事・関　美貴子 記）

卒後半世紀ぶりの再会も

昭和44年卒同期会・秋高44会

9月1日午後4時から、昭和44卒の同期会が秋田市の秋田キャッスルホテルを会場に、県内はもとより全国各地から112人が集合し開催された。中には卒業以来50年ぶりの顔もあり、驚きとお互いの無事を喜ぶ声が交錯した。

1年次の学校長、鈴木健次郎先生が離任式で述べられた「汝、何の為に其処に在り哉」の問いかけは年金世代になっても忘れられない秋高時代の貴重な思い出だ。

同期会は寺門卓君の司会進行で、北都銀行頭取の斉藤永吉君の代表挨拶、神奈川県から駆け付けた榊千鶴子さんの久闊を叙しての乾杯と続き、歓喜が渦巻いた。医師の高橋昭博君のリードで校歌斉唱とエールが行われ、長田史郎君の中締めで1次会はお開き。歓談別れがたく、50人余りがホテル内での2次会に臨み、親交を深め再会を約し散会した。

（菅原 孝次郎 記）

同期が講師で盛り上がる

昭和56年卒同期会

平成30年度同窓会通常総会が6月10日、秋田ビューホテルで開かれました。総会は昭和56卒が当番年次に当たったことに加え、総会に続く記念講演では、日本オリンピック委員会強化第二部副部長を務める渡部徹君（旧若美町出身）が講師を務めたこともあり、県内はもとより宮城県や関東・関西方面から48人が出席しました。

渡部君は「東京2020オリンピック・パラリンピック招致活動を振り返る」をテーマに講演し、招致ロゴマークの作成に始まり、開催地決定50日前に行った羽田空港でのイベントまでの招致活動やその裏話などを披露。▽東京都が主催するイベントに相乗りしながらSNSをフル活用し情報発信した▽決定200日前イベントでは歌舞伎俳優の市川海老蔵さんからわずか数万円という破格の報酬で協力してもらった―ことなどを写真を交えて紹介し、「東京での開催に対する国民の支持率が70%を超えたとき、開催都市に選ばれることを確信した」などと話しました。

56卒は県内在住者・勤務者を中心に、年に数回、同期会を開き旧交を温めていることもあり、総会の懇親会後は大半が2次会まで流れ、楽しい一日となりました。県外在住者の方々も機会を見てご参加ください。（古井 大樹 記）